

夕張川かわら版

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

平成22年 晩秋

其の一



○日時：平成22年4月10日（土）
○場所：栗山町高橋の沢（雨煙別川支流）

夕張川にサケを戻そう 雨煙別川 支流で サケ稚魚を 放流



スマルト（銀毛）になった稚魚

column サケのすみやすい川

各地で「学習目的のサケ放流」が行われるようになり、回帰したサケが見つかる大きなニュースになって報道されています。しかし放流された川の中には、もともとサケが産卵する場所がなかったり、稚魚が生育する環境がない川もあるようです。母川回帰本能で必死に帰ってきたサケたちにとっては、はなはだ迷惑ということになってしまいます。

サケが産卵する川は、川底に砂利があってそこに伏流水、湧水が出ていること、きれいな冷たい水が流れていることが条件になります。また、孵化した稚魚が海に出るまでの間に生息できる場所があるか、エサがあるかどうかなども大切になってきます。

サケを放流する河川を把握すると同時にサケの生態をよく知り、それにあった条件を整えるような川づくりを心掛ける必要があるようです。

今年で3年目を迎えるサケ稚魚の放流が、栗山青年会議所（栗山JC）、NPOくりやま等の呼び掛けで、高橋の沢（雨煙別川支流）で行われました。由仁町や栗山町の公共施設や関係者宅の水槽で飼育され、3〜4cmくらいの大きさまで成長した稚魚約3,000匹が放流されました。

ハサンベツ川の沢に「サケの稚魚プール」も作りました！



雪中、プールをつくる栗山JCの有志

これまで水槽で飼育していたサケ稚魚を、ハサンベツ川の沢に作られたプールに移しました。孵化したての稚魚は、おなかについているヨークサック（卵黄の袋）を養分に成長します。大きくなった稚魚は、しだいにユスリカの幼虫などのエサを食べはじめます。エサを食べはじめると、フンやエサの残カスで水槽の水が汚れるため、プールへの移動を行いました。



完成したプール 沢水を取り入れてます。

問 夕張川クイズ

これは夕張川下流の河川敷の写真です。河川敷一面に褐色の土が広がり、建設機械でその土を集めているようです。何をしているのでしょうか。



栗沢頭首工



清幌床止



会議の様子

第20回夕張川流域会議はバスによる見学で始まりました。見学会場は、栗沢頭首工、清幌床止、幌向川合流点付近の3か所です。栗沢頭首工では、落差が大きく魚の移動が困難になっている様子を確認し、清幌床止では新設された補助魚道と改良された中央魚道の様子を確認しました。

栗沢頭首工上流の支流域に、遡上した魚類の産卵に適した環境が多いため、栗沢頭首工の改善が必要との声が聞かれました。また、幌向川合流点付近では、次年度以降に予定されている河道掘削の場所と整備イメージを確認しました。

夕張川流域会議開催

○日時：平成22年8月30日（月）

○場所：江別河川事務所、バスによる見学会場／栗沢頭首工、清幌床止、幌向川合流点付近

川遊び入門

川の水位

増減する水位を知るサイン

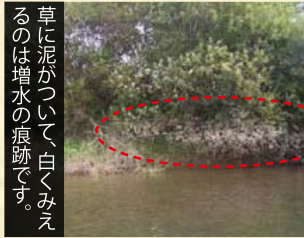
川の水位は雨によって急に増えることがあります。晴れていても上流で雨が降れば、たちどころに増水してしまいますし、ダムが放流することで増水することもあります。川で活動をする際には、その活動場所周辺をよく観察し普段の水位がどのくらいなのか、増水したらどのくらい水位になるのかを知っておく必要があります。また、活動中の水位変動を知ることも重要で、あらかじめ目印になるもの、例えば、崖や岩などを決めておき、時折チェックすればいいでしょう。ダムがある場合は、あらかじめ、放流の計画を問い合わせましょう。



「水位変動を知るための「目安棒」目印にするものかなければ、枝などを川に差し込み目安にしましょう。」



川岸のブロックには水位の痕跡が残っていることがあります。



草に泥がついて白くみえるのは増水の痕跡です。



ゴミがあれば、これも増水時水位の目安になりますね。



夕張川上流にはダムがあり、定期的に放流をしますが、雨が降っていても発電等のため放流し、水位が上昇することがあるので注意しましょう！！



背びれ、尾びれがみえる



黒くみえるのが全部マルタウグイ！！

マルタウグイ

体長は、40〜60cm前後でウグイより大型になります。主に沿岸部から河川河口部に生息し、春の産卵期には川を遡上する遡河性の回遊魚で、写真はちょうど春の産卵時期に撮ったものということになります。動物食性で、貝類、ゴカイ、エビなどを食べ、寿命は10年ほどです。



これがマルタウグイ オレンジの産卵色がみえる

夕張川の生き物たち

マルタウグイの大産卵場を見ってきました！

○日時：平成22年6月7日（月）
○場所：南幌町の清幌床止

流域生態研究所から「すごい数のマルタウグイが産卵しているぞ」との情報があり出かけました。場所は清幌2号床止の下流右岸側です。本場にすごい数のマルタウグイが水しぶきを上げて産卵していて、1時間も見入ってしまいました。川底の土砂、砂利が攪拌され、ちょうど産卵しやすい環境ができたようです。

問の答え

泥炭（ピートモス）をとっている。

泥炭は、コケや水生植物が堆積（たいせき）し、ある程度分解して炭化作用を受けたもので、夕張川下流域のいたるところで見られます。この泥炭を脱水、粉碎、選別したのがピートモスで園芸用土、もしくは土壌改良材として用いられています。



夕張川流域には馬追運河（長沼町）、幌向運河（南幌町）の2つの運河があります。明治期、この2つの運河は、札幌炭戸運河、花畔銭函間運河とともに四大運河と呼ばれ、明治26年に道庁が計画した北海道で最も急を要する事業にもあげられています。運河としての舟運利用だけでなく湿地原野の排水、洪水予防が目的であったようで、運河掘削で地下水の低下を図り耕作地を増やしたいという当時の社会事情がよくわかります。運河により幌向村（現南幌町）、長沼村（現長沼町）が江別村と川で結ばれたわけですが、当時の新聞は、1日ばかりだった幌向村と江別村間の行程が数時間に短縮されたことと報じています。物資輸送が楽になり、地域の物価も下がったといわれています。しかし道路の整備が進んだこと、洪水による運河の埋没などもあり、馬追運河は使われなくなりました。

幌向運河は細々と利用が続きましたが、昭和11年の夕張川切り替え後は、夕張川（今の旧夕張川）の水位が低下し、舟の航行が不能となり利用されなくなったということです。

*参考文献：石狩川舟運史

明治期の様子

総合学習で川下りをしました

○日時：平成22年7月16日(金)
 ○場所：阿野呂川合流点からJR鉄橋下流まで(図の①)
 ○参加者：栗山町立継立中学校3年生

継立中学校の3年生が「夕張川をゴムボートで下りながら自然環境や地域の様子を知ろう、川の流るるを体感し川の楽しさを知ろう」をテーマに、NPOくりやまのサポートで川下りをしました。どのボートもチームワークがよく、スイスイ漕ぎ進んでいました。途中の中州では、ボートを降りて川流れ(ライフジャケットを着て川を流れる)体験もしましたが、みんな中学生とは思えないほどのはしゃぎぶりでした。



ヤリキレナイ川 総合学習

増水後の川で魚捕り

○日時：平成22年7月8日(木)
 ○場所：由仁町のヤリキレナイ川
 ○参加者：由仁町立由仁小学校3年生30名

由仁小の3年生、30名がヤリキレナイ川で川の学習を行いました。4日前に集中豪雨があったので河原の草は増水でなぎ倒されていました。当日の水位は普段と同じくらいでした。採取した魚類はエゾウグイやフクドジョウなど6種、貝類はスジエビやカワニナ、水生昆虫はヤゴ、ガガンボ、オオコオイムシなどが捕れました。一番多かったのは、スジエビ、次にフクドジョウ、エゾウグイでした。昨年同様、種の数は変わりませんが全体的に数が減っているようです。増水の影響で上流へ移動したのかもかもしれませんが、少し心配ですね。

- ◎採取した魚類
 - エゾウグイ ●フクドジョウ ●ドジョウ ●イバラトミヨ ●ギンブナ ●モツゴ
- ◎その他、魚介類等
 - スジエビ ●カワニナ ●ミズムシ ●シマイシビル ●オオコオイムシ ●ガガンボ(幼虫) ●サナエトンボ(ヤゴ) ●ツチガエル(成体とオタマジャクシ)



ヤリキレナイ川 サケ稚魚放流

○日時：平成22年4月12日(月)
 ○場所：由仁町のヤリキレナイ川
 ○参加者：由仁町立由仁小学校3、4年生52名



昨年は残念ながら中止でしたが、今年はライオンズクラブ、夕張川なんでも探検隊が中心になって由仁小の児童参加で無事に行われました。放流した稚魚は、探検隊とライオンズクラブ有志が自宅等で育てたもので、約5cmくらいに成長していました。児童たちは放流に先立ち、サケの生態やヤリキレナイ川についてサケが上がつっていた話を聞きました。

Part 2

○日時：平成22年7月20日(火)、21日(水)
 ○場所：20日/阿野呂川合流点からJR鉄橋下流まで(図の①) 21日/長沼頭首工から馬追橋まで(図の②)
 ○参加者：栗山町立角田小学校4年生14名と6年生12名

角田小学校の4年生14人と6年生12人が、NPOくりやまのサポートを受けて川下りをしました。6年生は、阿野呂川合流点からJR鉄橋下流まで、4年生は長沼頭首工から馬追橋までを下りました。両区間ともほとんど流れのないとても安全な場所ですが、その反面、とにかく漕がないと進みません。みんな一生懸命パドリングしていました。



今年はゴムボートレースもやってみました。

○日時：平成22年7月27日(火)
 ○場所：長沼頭首工下流
 ○参加者：栗山町、由仁町の小学生4〜6年生23名

お馴染み「夕張川かわら版」は長沼頭首工の下流に場所を移し、栗山町のキッズクラブの小学生、由仁町の小学生が参加して行われました。当日は曇りで気温が低めの23℃(水温21℃)、風が強く濡れると少し寒い感じでした。子ども達は、川歩き、魚捕り、ボート遊び、川流れを体験しましたが、寒さで川流れができない子どももいました。魚捕りは、タモ網で河岸のクサヨシがある場所や平瀬の石の下にいる獲物を狙いました。ボート遊びは、オールの扱い方を習った後に班ごとに競争をしました。ボート競漕も川下りとは違った楽しさがあるようです。



- ◎採取した魚類
 - スジエビ ●ジュサケハゼ ●ウグイ(稚魚がたくさん) ●フクドジョウ
- ◎その他、魚介類等
 - ヤゴ(ノシメトンボ) ●ヒゲナガカワトビケラ ●ナガレトビケラ

川の指導者 養成講座 開催

○日時：平成22年6月26日(土) 27日(日)
 ○場所：清幌床止、築別川
 ○参加者：夕張川流域及び札幌市、千歳市在住者15名



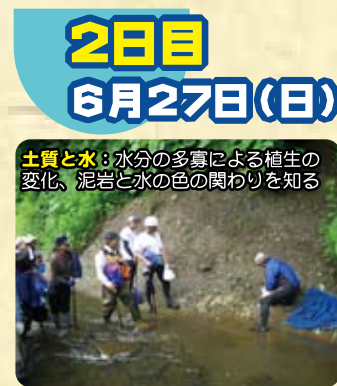
昨年6月にRAC(川に学ぶ体験活動協議会)の川の活動指導者養成講座が開かれましたが、「現場体験が少なくて、不安が残る」、「資格はもらったが自信がない」という声があったり、3日間にわたる講座のため参加できなかった、という人もいたようです。そこで今年度は現場実習を中心に講座を開催することになりました(RAC認定講座ではなく、自主的な講座で資格取得はなし)。講座は夏秋2回を予定し、1回目は「本来の川の姿を体感する」をテーマに、有資格者の指導のもと、川での実習講座を実施しました。



川を歩く：川を歩き、瀬、淵の場所を確認



網の使い方：タモ網を使った魚類の捕り方を学ぶ



土質と水：水分の多寡による植生の変化、泥岩と水色の関わりを知る



護岸と水流：護岸による水流の変化、川への影響を知る

ヤナギでビバーク 設置する方法



護岸と水流：護岸による水流の変化、川への影響を知る

ヤナギを使った